



島根県立 吉賀高等学校



個性と感性を磨く、学び舎



地域に暮らして、豊かな生き方を考える

日本屈指の清流・高津川の源流があり、豊かな自然に囲まれた吉賀町。清流の上流にあるからこそ自然を大切に生きようという地域の人々の想いがあります。吉賀高校はそうした吉賀町にある唯一の高校。地域の子どもたちと全国から真の豊かさを求める子どもたちが一つの小さな学校に集まって、勉学やスポーツに、生き生きとした毎日を過ごしています。そして、地域の人々は子どもたちを温かく見守り、応援しています。

—— 吉賀高校は吉賀町と共に生きる高校です。





吉賀地域中高一貫教育＋ 全国から真の豊かさを求める生徒たち

吉賀地域は、町内の3つの中学校と連携する中高一貫教育（連携型）の高校です。そして、平成27年度から、町外・県外からの生徒の受け入れを積極的に始めました。

県内の吉賀町以外、また全国から新たな吉高生が着実に増えています。

サクラマスプロジェクト

サクラマスは、サケ科の魚ですが、川で誕生した後、海に下って大きく成長し、やがて川に戻ってきます。

吉賀町は、保・小・中・高が連携して町全体で、「サクラマスプロジェクト」に取り組んでいます。令和2年度より第2期を迎え、

『地域の様々な人と交流し、力を合わせることが出来る生徒』
『地域の環境資源を活かした学びを基に自分と向き合う生徒』
『地域の現状を知り、ふるさとの未来に向けて行動できる生徒』
『地域の中で学ぶことにより、広い視野を身につける生徒』

の育成を目指しています。

また、川を町内とするなら、海は広く日本国中を、あるいは世界を意味し、地域や全国から人がこの地に集うプロジェクトとしてさらなる広がりをすすめています。

夢への^{みち}途は、ここにある



入学式



体育祭



球技大会



文化祭（吉高マーケット）



遠足



研修旅行



研修旅行（東京ディズニーシー）



地域活動部

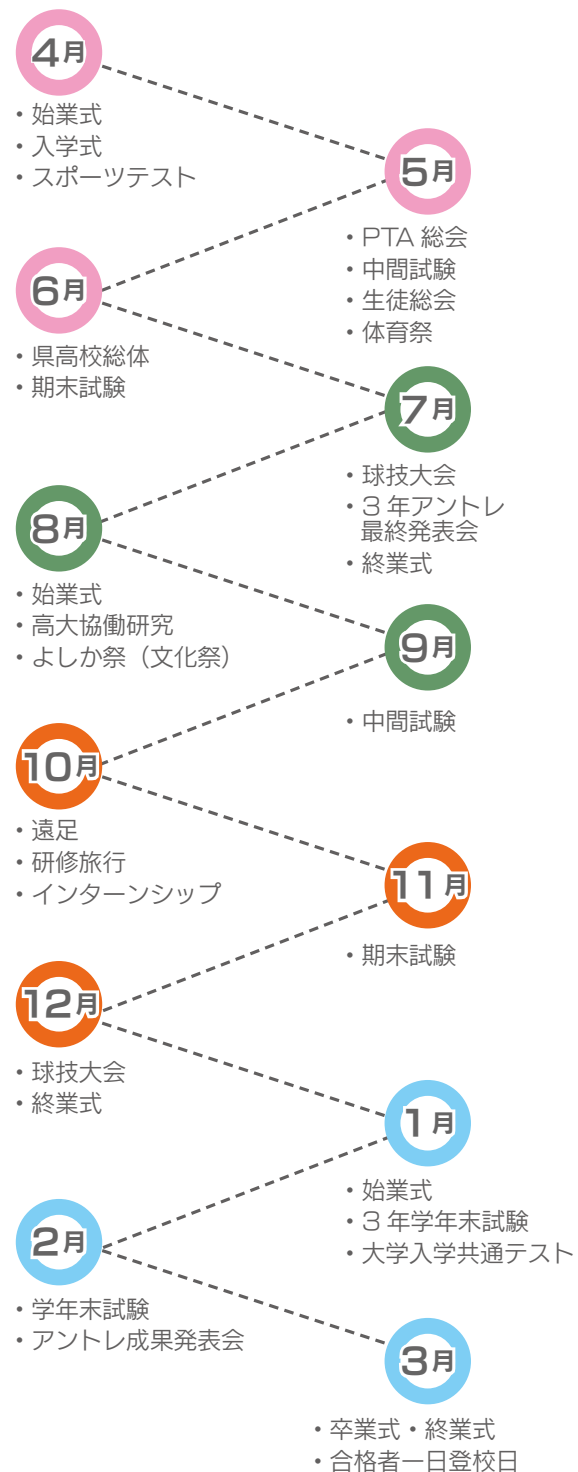


地域活動部（しめ縄づくり）



川の生き物の生態調査

年間行事





学習クラウドサービス「スタディサプリ」採用

授業の学習内容に関連した課題をオンライン教材として配信し、日々の学習内容の定着を図るとともに、定期試験や課題テストでの取り組みを確認しています。

また、実用英語技能検定（英検）の対策として、受検する級に応じた課題を配信しています。

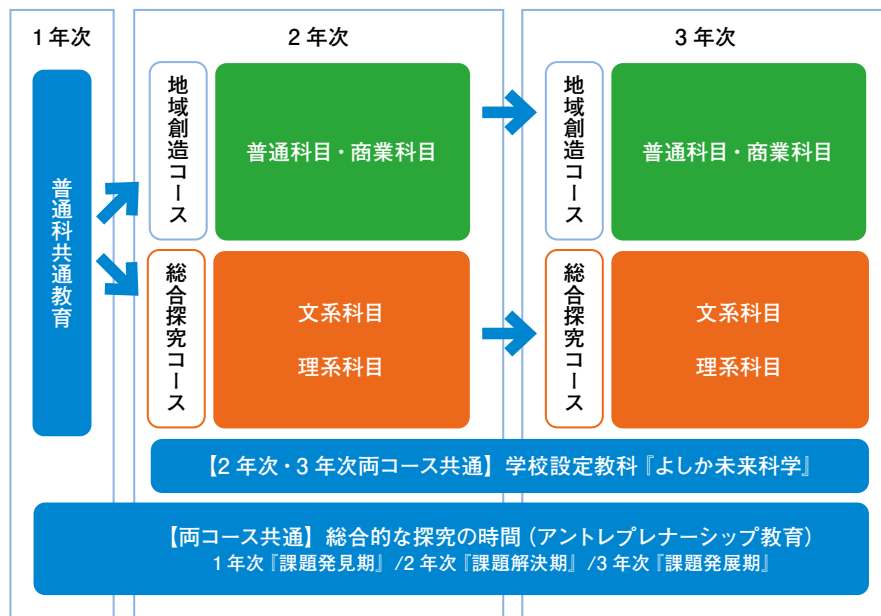
少人数指導

授業は、1年次から英・数・国で習熟度別に行っています。さらに、2年生からは進路希望によって2つのコース（下のコース選択図参照）に分かれます。そして、希望者を対象に個別添削指導にも力を入れており、少人数指導で学力の向上と進路実現を支援しています。

英語や数学がずっと苦手だった生徒が、少人数クラスの授業の中で学ぶ楽しさを知ります。大学進学をめざす生徒には、進路に合わせた指導を行います。



コース選択図



公設塾「よしか塾NEXT」

高校と一体になって吉高生の進路実現を支援する、吉賀町が設置する公設塾です。自学自習のサポートを軸に、学習に向き合うための支援を行っています。



自分の可能性が見つかる

キャリア
教育



吉賀高校 サクラマスプロジェクト ブランドデザイン

1. 地域の様々な人と交流し、力を合わせることができる
2. 地域の環境資源を活かした学びを基に自分と向き合う
3. 地域の現状を知り、ふるさとへの未来に向けて行動できる
4. 地域の中で学ぶことにより、広い視野を身につける

吉賀高校では、生徒のキャリア形成に資するため、保小中高とつながる吉賀町サクラマスプロジェクトと連動し、上記4つの力を身につけられるような取り組みを行っています。

普段の学習活動や、学校行事、進路活動に加え、アントレプレナーシップ教育などを通じて、吉賀町をフィールドに、地域の『人・もの・こと』と関わりながら学びを深めます。こうした経験を通して、社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現する力を身につけていきます。



1年生：アントレプレナーシップ教育【課題発見期】＋ 研修旅行

アントレプレナーとは、「起業家」を意味します。「起業家精神に学ぶ」をテーマとして、「無から有を創り出す精神」を学びます。そして、1年次を「課題発見期」と位置づけ、地域の方に学びながら、地域の課題について探究します。

10月の研修旅行※では、東京で生活する大学生とコラボレーションします。グループワークや企業訪問を通じて都市の生活を探究すると共に、地方と都市の関係性について考え、自分たちの生まれ育った町・自分たちが暮らす町を見つめ直します。（※研修旅行の時期・内容については今後変更となる場合があります）



2年生：アントレプレナーシップ教育【課題解決期】

2年生のアントレプレナーシップ教育では、1年生で見出した気づきをもとに、個人やグループでテーマを決め、問いを立て、その解決に向けたプロジェクトに取り組みます。

生徒は、Will（自分の興味や課題意識）・Can（自分にできることや強み）・Need（社会の中のニーズ）の視点を往還しながら、地域の人と関わり、試行錯誤を重ねていきます。

活動の中では、「考え、つくり、動かす」ことを繰り返しながら、現実働きかける経験を積み重ねます。こうした実践を通して、地域とつながりながら価値を生み出す力や、自らの行動で社会に変化をもたらそうとする姿勢を育てていきます。



3年生：アントレプレナーシップ教育【課題発展期】

豊富な体験学習の経験を基に、自らのキャリア形成に取り組みます。3年生では、これまでのアントレプレナーシップ教育の学びを振り返り、自分の取り組みや成長を整理・統合していきます。そのまとめをもとに、個別のプロジェクトをさらに発展させるとともに、7月の最終発表会では、3年間の学びを自分の言葉で発信します。

こうした「まとめる・伝える」という経験を通して、自らの成長や価値に気づき、自信を深めるとともに、その後の進路選択や生き方へとつなげていきます。

また12月は「サクラマス・とーく!」と題し、高校生と吉賀町内の小学生が一緒になって、自分のキャリアや今後の将来像について語り合います。



2月のアントレプレナーシップ教育の成果発表会。吉賀高校では、全員がプレゼンを行います。小規模校だからこそ、全員が主役になるのです。授業でも、行事でも、部活動でも、全員に何らかの活躍の場が与えられます。人間の可能性は、挑戦してみなければわかりません。一人ひとりが、自分の可能性を発見し、成長していく。吉賀高校はそんな学校です。



吉高生は、全員が地域活動部員

吉高生は、全員が地域活動部員であり、地域の様々な行事に、運営側として参加します。『よしか・夢・花・マラソン』、『田植え・稲刈り』、『七力祭』、『地域の農業収穫祭』・・・いろんな行事で運営体験やボランティア体験を積み、地域の方とふれあいながら、生きる力を伸ばします。

環境教育

2・3年次の学校設定教科『よしか未来科学』では、森・川・里・海、それぞれの専門家から、フィールドワークを交えながら、日本有数の清流・高津川流域を始めとした環境について学びます。

森や里の分野では、山へ行き植林体験を行ったり、川や海の分野では高津川の上流から下流にかけて生物調査を行い、森川里海の自然の繋がりと環境課題を座学と実践の両方から学びます。



「アントレプレナーシップ教育」、「地域活動部」、「環境教育」、そして学習や行事や部活動・・・吉賀高校は、学校でのすべての活動が生徒のキャリア発達につながると考えています。それが、「小さな学校で大きな夢を!」の具体であり、「サクラマスプロジェクト吉賀高校グランドデザイン」に描かれています。

自分を磨くさらなるステージへ



合格先一覧

令和7年度卒業生進路状況

◎進路状況（令和8年3月31日現在）

進学：4年制大学14名

短期大学1名、専修学校等10名

就職：公務員2名、民間7名

（県内4名、県外5名）

◎4年制大学【国公立】

○島根県立大学(3) ○福知山公立大学

◎4年制大学【私立】

○創価大学 ○大阪国際大学 ○京都精華大学 ○同志社大学
○岡山商科大学 ○川崎医療福祉大学 ○広島経済大学(2)
○広島工業大学 ○広島国際大学 ○広島修道大学
○広島文化学園大学 ○日本経済大学

◎短期大学

○兵庫大学短期大学部

◎専修学校等

○ESPギタークラフトアカデミー
○東京リゾート&スポーツ専門学校 ○上田安子服飾専門学校
○広島酔心調理製菓専門学校 ○広島理美容専門学校
○島根県立農林大学校 ○島根リハビリテーション学院
○山コアカレッジ ○ESPエンタテインメント福岡
○福岡調理師専門学校

◎就職

○自衛隊 ○青ひげ株式会社 ○カッデン株式会社
○澄川工業株式会社 ○西日本高速道路メンテナンス中国株式会社
○日本郵便株式会社 ○有限会社フォーマックス
○マツダ株式会社 ○有限会社みやじま華屋敷





「最後まで諦めない」

この度、島根県立大学看護栄養学部看護学科に合格しました。私は高校二年生の冬に大学進学を決め、本格的に受験勉強に取り組みました。夏休みや冬休みには学校が開いている日は登校して勉強し、塾でも学習を続けていました。しかし、模試ではなかなか点数が伸びず、判定もほとんどがE判定で、不安やプレッシャーを感じる事が多くありました。それでも先生方の支えのおかげで、最後まで勉強に向き合うことができました。共通テスト本番では緊張もありましたが、全教科に全力で取り組むことができました。しかし、結果は思っていたより点数が取れず、本来の志望校は

茅原優斗 島根県立大学 看護栄養学部看護学科

諦め、島根県立大学を受験することを決めました。島根県立大学も模試ではD判定で、二次試験の面接で高得点を取らなければ合格できない状況でしたが、先生方の指導のおかげで、本番は自分の力を出し切ることができました。後輩のみなさんに伝えたいことは、「自分には無理かもしれない」と思ったとしても、最後まで諦めないことの大切さです。私は一般受験で、卒業間近まで受験をしていました。周りの友達が次々と合格していく姿を見て、不安になることもありましたが、それでも自分を信じて努力を続けました。吉賀高校には、支えてくれる先生方がたくさんいます。辛くなったときには、きっと先生方が支えてくださると思います。ぜひ色々なことに挑戦し、自分を信じて最後まで頑張ってください。



「一歩踏み出す勇気が自信に変わる」

私はもともと自分に自信がなく、何かに挑戦する前から「自分には無理だ」と決めつけてしまう消極的な性格でした。進路を考えると、不安ばかりが先に立ち、勉強やスポーツに本気で向き合えず、行動を起こさないまま時間だけが過ぎていきました。

しかし二年生になり本格的に進路について考えるようになった頃、「このままでは何も変わらない」と強く感じました。そこから、自分なりに目標を定め、意志を持って行動することを心掛けるようになりました。

田口 桜 同志社大学 経済学部

行動を起こすようになってからも、壁にぶつかることは何度もありましたが、そのたびに先生方が寄り添い、丁寧に指導してくださいました。それが大きな支えとなり、自信を持って試験に挑むことが出来ました。

後輩の皆さんも、不安や迷いを感じることがあると思います。自分に自信が持てなくなることもあるかもしれません。しかし、そんな時こそ勇気を出して一歩を踏み出してください。吉賀高校は、挑戦しようとする気持ちを本気で応援してくれる場所です。意志を持って動き出せば、必ず支えてくれる人がいます。最後まで諦めず頑張ってください。



「サッカーと進路を追いかけた夏」

私は、部活と勉強の両立を目標に入学をしました。振り返ってみると3年間は本当にあっという間でした。1、2年次では両立することができず、後悔の残る2年間になりました。なので3年生になったときは「後悔ののこらないような1年間にする」と決めて部活と勉強に励みました。

私は2年次の冬から進路を考え始めました。私には中学校に入学したときから変わらない将来の夢があります。それはプロサッカーチームのトレーナーになることです。その目標があったから、次の進路は理学療法士の資格が取得できる専門学校や大学を探しました。2年次の担任の

広瀬 颯 島根リハビリテーション学院 理学療法学科

先生に紹介してもらった学校のオープンキャンパスに冬に行き、8月の総合型選抜入試で島根リハビリテーション学院を目指すことを決めました。入試方法は面接と作文と国語でした。私にとって3年次の夏休みはとても勝負の夏休みでした。部活も遠征などもあり、部活のあとは学校で面接練習をする毎日でした。その夏休みの貴重な時間を私の面接練習の時間に割いてくださった先生方には感謝しかありません。夏休みに努力したからこそ、最後の高校サッカー選手権に集中することができました。

後輩のみなさんに伝えたいことは3つです。1つ目は好きなことをとことん好きになることです。2つ目は何事にもチャレンジすることです。3つ目は今を楽しんで後悔のない高校生活を送ってください。



「進学から就職へ」

私はもともと大学に進学するつもりでした。しかし、将来について考える中で、「社会のために直接役立つ仕事がしたい」という思いが強くなりました。そこで、自衛隊の活動内容や災害派遣の話聞き、人の命や生活を守る仕事に大きな魅力を感じました。そして、進学ではなく、就職する道を選びました。周りの友達が進学という進路を決める中、不安になることもありましたが、進路を変更してからは試験対策と体力づくりに力を入れました。筆記

岩原由奈 自衛隊 山口駐屯地

試験の勉強や面接練習を重ね、「なぜ自衛隊を志望したのか」を自分の言葉で話せるように準備しました。面接ではとても緊張しましたが、正直な気持ちを伝えることができました。内定の連絡を受けたときはとてもうれしく、同時に身が引き締まる思いでした。これから責任を持って努力していきたいと思います。

後輩の皆さん、自分の気持ちにしっかり向き合いながら一歩ずつ前に進んでいってください。周りの雰囲気流されることもあるかもしれませんが、自分を信じて目標に向かってください。応援しています。これからも頑張ってください。

自身を、マインドを磨く、部活動

少数精鋭の部活動は、新たな自分の可能性を発見するチャンスです。
また小規模校ながら文化系のクラブも多彩で、生徒はいきいきと部活動に励んでいます。



サッカー部

吉高サッカー部は素晴らしいサッカーファミリーと共に、感動を与えるサッカーを体現することを目指して日々活動しています。



男子バレーボール部

バレーボールを通して、競技力の向上とともに人間性の成長を大切に活動しています。
「立派なスポーツマンである前に、立派な一人の人間であれ」
この言葉を指針に、礼儀や責任感、仲間を思いやる心を育みながら、日々の練習に励んでいます。今後も応援されるチームを目指し、主体的に活動していきます。



女子バレーボール部

部員が自分達で意見を出しあいながら、活気ある練習を行っています。地域とのつながりを大切にし、応援していただけるようなチームを目指して活動しています。



陸上競技部

「0.1秒でも速く走る」「1cmでも多く跳ぶ」・・・
こんなシンプルでいて、とても難しい目標を乗り越えようと、生活の中の1つ1つの取り組みを大切にしながら、日々努力を重ねて活動しています。

地域活動部

地域のイベント参加やボランティア活動をする部活動です。全校生徒が所属し、主体的に活動に参加することができます。





音楽部

バンド演奏を中心に、地域のお祭りや学校行事などで発表する場があり、地域の方々のご指導ご支援のもと活動しています。



美術部

絵画やデザインなど色々な作品に取り組んでいます。とても楽しく活動しており、各自が納得のいく作品を制作するため頑張っています。



茶道部

学校でのお点前のお稽古だけでなく、お茶づくり体験など、幅広く活動しています。楽しく、気軽に日本の伝統文化を学ぶことができます。



写真部

「撮りたいときに、撮りたいだけ撮る」を方針に掲げ、活動しています。初心者が多い中、コンクールや高校写真展においては入賞もあり日々成長を続けています。



華道部

毎回楽しくお花を生けています。生けた後は、自宅や学校に飾ります。水切りなどの専門的な技術や、お花の形を活かした活け方を学びながら、センスを磨いています。



文芸部

俳句や詩、小説など自分で好きな作品を創作します。週に2, 3回、図書室に集まって各自創作活動を行い、その時に情報交換や作品の鑑賞もします。作品は自分の好きな時に家でも作ることができるので、自分のスタイルに合わせた活動ができます。



合言葉は、 「3年間で1000回の本番 ～ちょうどいい距離でちゃんと伸びる～」

新入生からのメッセージ

成田 灯希 [東京都 小笠原中学校]

僕が吉賀高校を選んだ理由は、小規模なため、学習面や進路などで悩んだときに丁寧に教えてくれること。

アントレプレナーシップ教育を通して、自分のやりたいことを見つけ出し、やりたいことに必要な力を伸ばすためです。

僕は今年から寮に入り、自由に生活できる反面、洗濯や掃除など、今まであまりやらなかった事をやり、親の大変さを知る事ができました。

僕はまだ本当にやりたいことを見つけることができていません。そのため僕は吉賀高校生とのコミュニケーションを活発にし、様々な視点を取り入れてこれからの人生を考えられるようにになりたいです。



山下 芭奈 [益田市 益田中学校]

私が吉賀高校を選んだ理由は、アントレプレナーシップ教育によって、自分で考える力と協調性を高められると思ったからです。実際に吉賀高校に通ってみると、入学当初から困った事があれば先輩方やクラスメイトはもちろん、先生方や地域の方々から自然と助けてくださる、温かい雰囲気を



感じました。

吉賀高校では寮も魅力の一つですが、私は毎日JRとバスを乗り継いで通学しています。便数は限られていて不便なことも多いですが、待ち時間に友達や先輩方とお喋りをしたり、課題に取り組んだりなどして過ごしています。

今はまだ、通学だけで精一杯ですが、これからは日々通い続ける事と、高校生活を頑張っていきたいと思います。

榎本 奏 [吉賀町 六日市中学校]

私が吉賀高校を選んだ理由は、地域と関わる活動が多いからです。先輩方が、アントレプレナーシップで自分の好きなことを地域の方と一緒に活動していたり、私も地元の吉賀高校でもっとたくさんの地域の方と関わりたいと思いました。

吉賀高校の良いところは、先輩、先生方がとても優しいところです。4月から、吉賀高校に入学し、先輩、先生方がたくさん話しかけてくれたおかげで、不安も小さくなり、今は学校生活が楽しいです。

三年後には自分も頼られる先輩になれるように頑張りたいと思います。

中学生のみなさんぜひ吉賀高校に来てください。



齋藤 悠琉 [吉賀町 柿木中学校]

僕が吉賀高校を選んだ理由はアントレプレナーシップ教育の活動で自分が育った地域と関わることに魅力を感じ、将来的に必要な力を得ることができると思ったからです。吉賀高校は小規模校ではありますが、生徒と先生との距離感も近く、気軽に学習面や進学面でも先生方に丁寧に教えて



もらうことができることが魅力の一つです。中学校とは異なり、個性豊かな友達もでき、新しい考え方を見つけることもいいところです。僕の高校の目標は行きたい専門学校のために、十分な学力をつけることと、英検2級に合格することです。

またアントレプレナーシップ教育を通して自分の苦手なことを少しずつ克服していきたいです。

「小さな学校」の多様な学び、 「大きな夢」への自己成長

校長 河井 俊彦

清流・高津川の源流に抱かれ、水とすむまち・吉賀町にある吉賀高校は、開校以来 78 年の長きにわたり、地域とともに歩み、およそ 4500 名の卒業生を社会に送り出してきました。

こうした伝統を受け継ぎつつ、本校は、地域や首都圏の大学と連携した「アントレプレナーシップ教育」の推進、県外・町外からの生徒の積極的な受け入れ、そして吉賀町内 3 中学校（柿木・吉賀・六日市中学校）との連携型中高一貫教育を大きな特色としています。今春は、24 名の新入生を迎え、全校生徒 71 名（うち県外生 13 名、県内町外生 19 名）で新たな年度をスタートしました。

吉賀高校は、「至誠（まじめに）・創造（あらたに）・努力（ひたむきに）」を校訓とし、「小さな学校で、大きな夢を！」を合い言葉に、小さな学校だからこそできること（生徒一人ひとりに役割があり、生徒一人ひとりにスポットライトが当たる教育）を大切に、教育活

動に取り組んでいます。

主に県外・町外からの生徒が生活する寄宿舎については、吉賀町の支援により、町営「サクラマス交流センター」が女子寮として設置され、全室個室（バス・トイレ付き）、地元の食材を使った食事という恵まれた環境の中で、落ち着いた生活を送ることができています。さらに、サッカー部が使用する町営人工芝グラウンドに隣接する「よしかみらい交流センター」という 2 つめの寄宿舎が男子寮として運営されています。

その他にも、放課後学習支援のための公設塾「よしか塾 NEXT」や部活動遠征のための振興会バス運行など、吉賀町からの大きなバックアップのもとで、充実した教育環境が整っています。

吉賀高校は「小さな学校」での多様な学びの経験を通じて、すべての生徒が「大きな夢」を見つけ、育て、実現し、そして自己成長できる学校を目指しています。



文科省 DX ハイスクール 採択校



「森川里海 DX 学 ～島根の中山間地からデータで挑む未来共創～」のテーマで申請した本校の取り組みが、令和 8 年度より文部科学省の採択事業として決定しました。この事業を契機に、吉賀高校は教育課程のさらなる充実を図っていきます。中山間地域という地理的環境にある本校だからこそ、最新の DX 技術を活用した高度な探究活動が不可欠です。

教育課程においては、「森川里海 DX 学基礎」で、理系分野の水質・生物調査と文系分野の地域産業・歴史調査をデジタルデータで統合する文理融合カリキュラムを展開します。3 年次には「森川里海 DX 学演習」と、地域創造コースに新設される「情報 II」等を通じて、ビッグデータ解析や AI を用いた環境変化予測シミュレーションを実践的に学びます。

さらに、校内に設置する「森川里海デジタル・ラボ」は地域にも開放し、デジタル技術を駆使して地域の複雑な課題解決に粘り強く挑む拠点となるように整備していきます。大学や企業とも連携を深め、地域に根ざしつつグローバルに活躍できる DX 人材の育成を目標としています。

学校沿革

昭和 23 年	島根県立益田農林高等学校七日市分校および柿木分校として設置認可（定時制課程） 七日市村役場の 1 部を仮校舎として開校。
昭和 38 年	島根県立益田産業高等学校より分離独立し、島根県立吉賀高等学校および同校柿木分校として設置 校歌制定・作詞は当時松江南高等学校校長の木島俊太郎先生、作曲は島根大学の森山俊雄教授 若鮎をデザインした校章制定
昭和 47 年	校訓碑建立、学校庭園完成
昭和 48 年	寄宿舎竣工「盛岳寮」と命名
平成 2 年	校舎竣工式、創立 40 周年記念式典挙行、バラ園造成
平成 9 年	制服改定（本年入学生より学年進行） 海外研修旅行（シンガポール）決定
平成 13 年	屋内運動場竣工
平成 13 年	創立 50 周年モニュメント設置 中高一貫教育（連携型）本格導入（対吉賀中学校）
平成 15 年	中高一貫教育（連携型）本格導入 （対蔵木中学校・六日市中学校）
平成 18 年	中高一貫教育（連携型）本格導入（対柿木中学校）

平成 23 年	サクラマスプロジェクト開始
平成 24 年	1 年生東京研修開始
平成 27 年	キャリア教育成果発表会開始
平成 28 年	全国高校生自然環境サミット in 吉賀 開催 全日本ユース（U-18）フットサル大会出場 ビーチバレー・ジャパン女子ジュニア選手権大会出場
平成 29 年	サクラマス交流センター竣工 公設塾「よしか塾 NEXT」開設 青学大・法政大と高大協働研究開始
令和 2 年	第 5 回全国高校生 SBP 交流フェア参加 特別賞受賞
令和 3 年	「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト佳作受賞
令和 4 年	インターハイ出場（女子テニスシングルス） 国体出場（少年女子テニスの部）
令和 5 年	第 15 回キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰受賞 国体出場（少年女子テニスの部）
令和 6 年	国体出場（少年女子テニスの部）
令和 7 年	インターハイ出場（女子テニス団体・シングルス） 全国高校生かるたグランプリ出場

吉賀町の力強い支援



吉賀高校は地域の学校として吉賀町や多くの組織から力強いバックアップを受けています。また、寮機能を重点とした「サクラマス交流センター・よしかみらい交流センター」や、吉高生の進路実現の支援のための公設塾「よしか塾 NEXT」を開設。

中山間地の魅力ある高校のために、住環境や学習支援をさらに充実させています。

吉高支援室

吉賀町役場総務課内に吉高支援室が設置されています。高校と連携して、物心両面で吉賀高校の教育活動を支えます。

公設塾「よしか塾 NEXT」

吉賀高校と一体となって、吉高生の進路実現を支援します。

バス通学補助

路線バスを利用して通学している吉高生の希望者に回数券を補助しています。バス通学の費用はかかりません。

吉賀高校支援協議会バス

部活動の遠征等では、支援協議会バスを利用することができます。バス運行経費、補修費、運転手の賃金、宿泊費等は、ほとんど支援協議会を通して町が負担します。この他、進路指導や生徒活動も支援協議会が支援しています。

研修旅行補助

3泊4日の研修旅行のために、町からたくさんの補助をいただいています。

キャリア教育・地域活動部への協力

吉賀高校のキャリア教育や地域活動部の活動は、吉賀町の町民の皆さんの協力によって成り立っています。

サクラマス コーディネーター

吉賀高校のサクラマスコーディネーター(魅力化コーディネーター)は吉賀町役場の職員として、吉高生の皆さんの学校生活が少しでも充実した時間になるよう、様々な場面で地域と学校を繋ぎます。

吉賀町の子育て支援

吉賀町では、高校への支援の他に、平成27年度から給食費・保育料が完全無償化されました。そして吉賀町の住民であれば、医療費も高校卒業まで全額助成されます。

人工芝グラウンド「よしかみらい」

サッカー部は日頃の部活動で、町営の人工芝グラウンドを使用させていただいています。



吉賀町が運営する施設をご紹介します！

サクラマス交流センター（女子）



全室個室（定員 30 名）

全ての部屋が個室で、バス・トイレ付きです。ロフト形式のベッドがあり、学習机、椅子、クローゼットも備え付けです。

費用（令和 8 年度）

舎費 月額¥36,000 + 水道・光熱費
食事 土日祝を含む 1 日 3 食（昼食は弁当）
※くわしくは吉賀高校ホームページにて



交流室

交流室は、食堂も兼ねています。食事時間帯以外では、学習したり、他学年と交流することもできます。

よしかみらい交流センター（男子）

全16部屋（定員30名）

3タイプの部屋があります。各部屋にバス・トイレ・流し台・ベッド・学習机・椅子・衣装ケース付きです。部屋タイプ別に1～3人部屋となります。

費用（令和 8 年度）

舎費 月額 ¥45,000（水道・光熱費含む）
食事 土日祝を含む 1 日 3 食（昼食は弁当）
※くわしくは吉賀高校ホームページにて





〒699-5522 島根県鹿足郡吉賀町七日市 937 番地
TEL.0856-78-0029 FAX.0856-78-0742
E-mail yoshikakoko@pref.shimane.lg.jp
ホームページ <http://www.yoshika.ed.jp>

学校のこと、もっと知りたい方はこちら



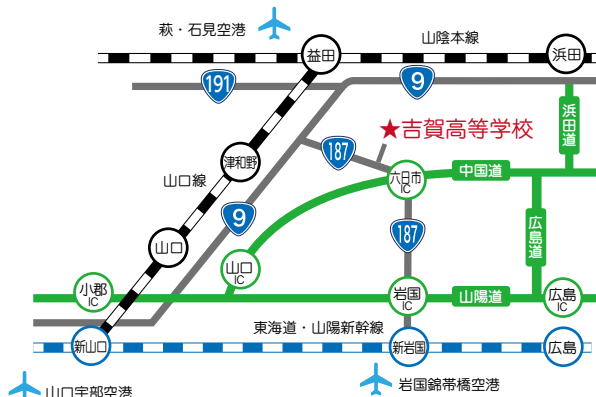
[ホームページ](#)



Instagram



Facebook



モニュメント「翔」

正門左にあり「東京スカイツリー」のデザインを手掛け、令和2年に文化勲章を受章された吉賀町名譽町民澄川喜一氏により、吉高創立50周年記念として制作されました。校章のモチーフである若貼を力強くシャープに表現しています。

